

今日のみことば

□ 5月14日(日) テトス 1章

クレテ島で教会に仕えるテトスを指導するために、パウロはこの手紙を書いた。偽教師に注意をするようにと、強い指導力を発揮しました。

□ 5月15日(月) テトス 2章

テトスには健全な教えによって、クレテ島のキリスト者たちが、健全な生活を送るように導かねばならなかった。パウロは「慎み」「謹厳」を説いてきた。

□ 5月16日(火) テトス 3章

キリスト者「選びの民」である。このような者として、私たちのほかの人に対してとるべき態度が、ここに記されています。選びの民は、主の恵みをあらわす者となるべきです。

□ 5月17日(水) フィレモン

パウロの手紙の中で、最も個人的な手紙です。オネシモという奴隷に関して懇願するという個人的なものです。この手紙を通して当時の奴隷制度とキリスト者の態度を知ることが出来る

□ 5月18日(木) ヘブル 1章

ユダヤ人キリスト者に宛てた手紙で、迫害によってキリスト信仰からユダヤ教に戻ろうとする者たちに、キリストのよる決定的な救いを教えているのがこの手紙です。

□ 5月19日(金) ヘブル 2章

イエスは私たちを救うために、み使いとして来られず、私たちと同じ肉体をとられました。主は私たちのために、自ら試みられた勝ちを得られました。

□ 5月20日(土) ヘブル 3章

キリストはモーセに勝っておられる。主イエスともモーセも忠実であったが、モーセは僕として忠実であり、イエスは御子として忠実であられた。

ろば No. 1815

2017年 5月14日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

サムエル上1:10-11
ハンナは悩み嘆いて主に祈り、激しく泣いた。そして誓いを立てて言った。「万軍の主よ、はしための苦しみを御覧ください。はしために御心を留め、忘れることなく、男の子をお授けくださいますなら、その子の一生を主におささげし、その子の頭には決してかみそりを当てません。」

「母の日」はアメリカの一少女アンナの母を想う思いに、人々が共鳴して起こったすてきな運動です。アンナの母親は、働く母親の仕事を大切な仕事として支えてきました。また毎日曜日には教会学校で、神さまのみ言葉を子どもたちに教えてきました。アンナはその母の姿を見てきました。母の死後アンナは、この母を偲ぶ記念会を、母が仕えてきた教会でいたしました。その時、出席して下さった方に白いカーネーションを差し上げて母を偲びました。このアンナの母親への想いに感動した人たちによって、この運動は今日では、世界の人たちが心に留めるものになりました。

私には「母の日」になると、必ず思い起こさせていただくお話し

があります。日本救世軍大将・山室軍平の「母の愛」という有名な説教です。山室軍平は、岡山の貧しい山村農家の八人兄弟の末っ子として生まれました。生まれたときから虚弱体質であった軍平を、母ともは不憫に思い、どの神さまと言うこともなく神さまに「どうか軍平が無事に育つように。こんな山の中だから、偉くなるのは無理でも、世の中のために役に立つ人になれますように」と祈り続けたと言われます。そしてその真心を表すために、「私は、一生卵を食べません」と誓いました。当時その地方では一番の滋養物であり、ごちそうであった卵を食べないことを誓ったのです。軍平が日本救世軍司令官になって

たびたび母に「おかげで私はいつも元気だし、およばずながら神と人のために一生懸命働いています。もう祈りがかなえられたのだから、もう卵を食べて長生きをして下さい」と頼んだが「それでもなんだか気がすまないから」と言って、一生卵を食べなかったそうです。山室軍平の献身的に思いやる心や、先駆的な社会福祉活動に邁進したその原点を、私たちがそこに見させていただくのは、この「母の愛」に象徴される神の愛であり彼の生涯を貫いたのは、貧しき者、小さき者への愛でした。

サムエルの母ハンナの祈りに見させていただくのは、主なる神への信頼とすべてを御心に従って生きる覚悟です。ハンナには子が与えられませんでした。神の祝福から外されたかに理解されていた時代、ハンナは心の底から子が授けられることを祈りました。与えられた子は主にささげると祈りました。私はこのハンナの願いを聞きながら、私たちはどのように神さまの御心を聞いているのだろうかと思うことでした。ハンナは神さまの試みの中にありました。彼女は神さまの祝福をいただきたいそのことを通して、更に神への信頼を確かなものとされたいとの願いを祈ったのです。子を与えられることを通して、神の御心をしっかりと受けて留め、与えられた目に入れても痛くないほどの愛する子を、神さまの働きのためにおささげする、と言う信仰の表明をいたしました。私はそこに、すべては神さまのお計らいの中にある自分を見させていただくのでした。私は山室軍平が、自分の働きの原点を、「卵断ちの母の愛」を語る中で伝える断ち切なものの。独り子イエスを私たちの救いのために与えて下さった神の愛を

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
ルカ 10:38-42 イエスを愛した二人の女

イエスはこの世的には家族をもっておられませんでした。イエスは「「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが人の子には枕をすところもない」(マ18:20)と言われたことがあります。

そのイエスにとってマルタ、マリヤ、そしてラザロの家庭は訪ねられて心の安らぐところでした。マルタはイエスが来られると、もう歓迎したい心でいっぱいになって忙しく立ち働きました。マリヤは、イエスが来られるとたくさんお話しが聞けると、その足下に座り込んでしまいました。そのような状況の中でのマルタがイエスにマリヤへ注文を付けたとき、イエスが言われた言葉が、私たちの心を騒がせてはいませんか。イエスが語られた言葉を、私たちはしっかりと聞き取ることは必要です。イエスは「必要なことはただ一つだけである」と言われた言葉はしっかりと吟味されるべきです。



Read God's Word.